

## 奥羽本線秋田・土崎間泉外旭川駅設置に向けた取り組み概要

東日本旅客鉄道株式会社 正会員 ○皆川 大  
 東日本旅客鉄道株式会社 非会員 成田 紘也  
 東日本旅客鉄道株式会社 非会員 千田 一俊

## はじめに

泉外旭川駅は、奥羽本線の秋田・土崎間に位置し、2021年3月に土地区画整理事業や民間住宅地開発など都市インフラの整備が進み、良好な居住環境を有する地区に開業した。この地区は、鉄道沿線でありながら秋田・土崎間の駅間距離が約 7.1 km と長く、鉄道がご利用しづらくなっており、地域住民からも強く設置要望があったことから、秋田市からの請願駅として事業が進められた。(図①)

本稿では、設置箇所が市街地という立地である中、秋田市と協議し事業全体の利便性を向上するため当社が取組んだ設置計画と施工について報告する。



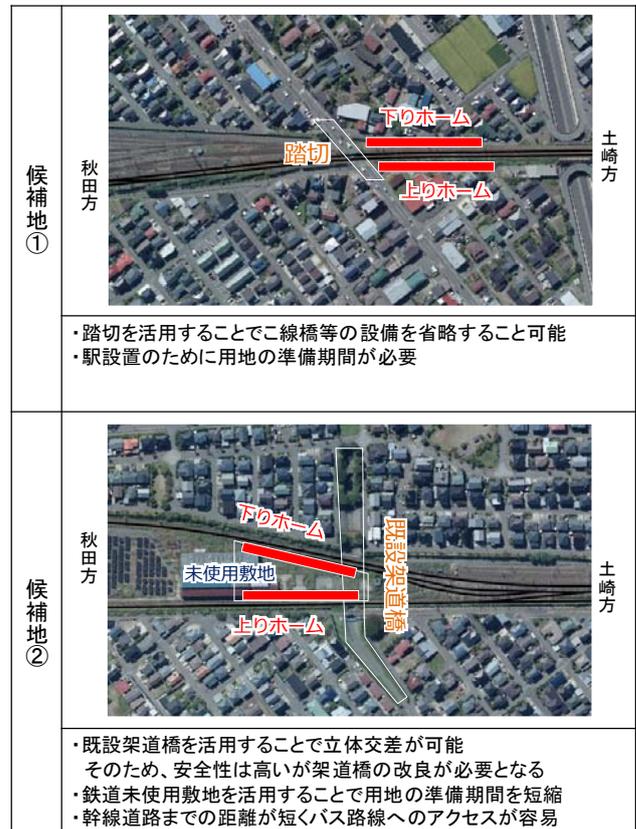
図① 泉外旭川駅 位置図

## 1. 事業計画

## (1) 設置箇所の検討

当駅が位置する奥羽本線秋田・土崎間は複線区間となっている。検討した結果、2つの候補地が選定された。以下に候補地の特徴と駅のイメージを示す。(図②)

候補地①②は約 1.6km 離れた別々の場所であり、用地確保の違いはあるが、それぞれ既設鉄道施設を活用できるメリットがあった。



図② 候補地と駅のイメージ

秋田市との協議の結果、立体交差で鉄道と旅客公衆の安全性が確保でき、更に鉄道未使用敷地を活用することで大きな事業期間短縮となる候補地②を選定した。

## (2) 鉄道施設の概要

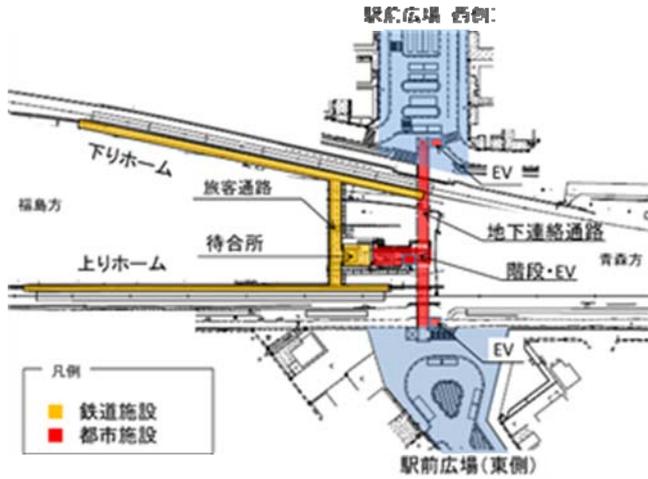
主な鉄道施設と都市施設の概要を図③、表①に示す。地下連絡通路となる既設架道橋は道路として使用されていた(図④)が、中間部に階段とEV設備を増設することで鉄道施設へのアクセスルートとして整備されるとともに歩行者・自転車専用通路に変更された。また、架道橋へ繋がる線路左右の土地を埋め立てることで駅前広場へと整備された。

キーワード 相対式ホーム新設

連絡先 〒010-0001 秋田県秋田市中通7丁目2番5号

秋田土木技術センター 018-835-6142

本事業にあたり、既設架道橋は当社財産であったが、秋田市への無償譲渡とし、地下連絡通路から鉄道施設までの都市施設についても鉄道未使用敷地を活用することから秋田市が無償使用することとなった。



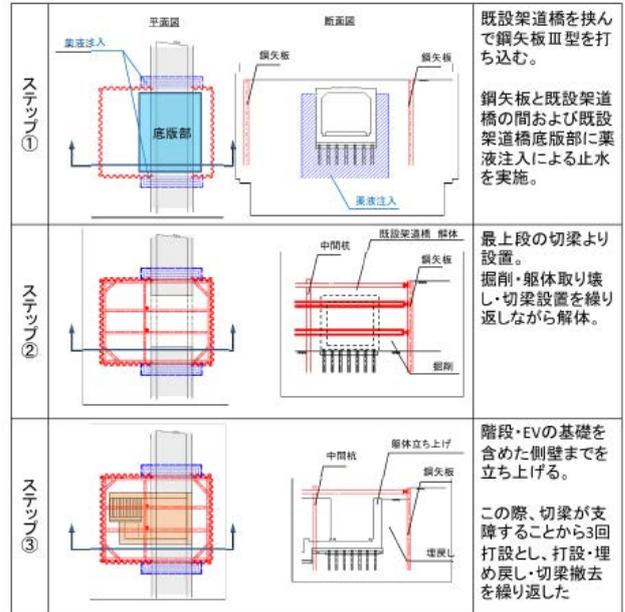
図③ 各施設配置略図

表① 各施設概要

区分	財産区分	施工区分	設備	概要
鉄道施設	当社	当社	駅舎	あり
			プラットフォーム	2面2線 6両対応 桁式 延長125m 幅2.6m 上家2両分
			待合所	床面積 27.7㎡
			旅客通路	36.5m 上家あり
			その他	無人放送等 接近揭示器 他 乗降人員 約2,350人/日
都市施設	秋田市	当社	地下連絡通路	階段 EV1機 (11人乗り、貫通2方向型)
			地下連絡通路	EV2機 (各11人乗り)
		駅前広場	線路左右 各3,000㎡程度	

## 2. 既設架道橋の改良工事

既設架道橋の躯体の一部を取り壊し、地下から地上へ繋がる階段と EV を増設するための工事概要を以下に示す。(図⑤)



図⑤ 架道橋工事概要略図

既設架道橋を改良し活用することで、こ線橋や橋上化駅舎のような大規模施設を設置する必要がなくなったことで、全体事業費を抑えるとともに工事着工から僅か 15 か月という期間で開業を迎えることができた。(図⑥⑦)

## おわりに

本事業は、2011年度より調査・協議が実施され約10年に及ぶものであり、この間携わった方々の知恵と工夫により今回開業を迎えることができた。本事業にご協力頂いたすべての関係者の皆様にこの誌面を借り開業の報告と合わせて厚くお礼申しあげる。



図④ 架道橋施工前の状況



図⑥ 架道橋施工後



図⑦ 鉄道施設の施工後